

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
169	12-129	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Income inequality, alcohol use, and alcohol-related problems. 所得格差と飲酒および飲酒関連問題の関連		
執筆者		
Karriker-Jaffe KJ, Roberts SC, Bond J.		
掲載誌		
Am J Public Health. 2013 Apr;103(4):649-56		
キーワード		
所得格差、飲酒関連問題、人種間貧困比、Gini 係数、貧困		
要 旨		
目的： 州毎の所得格差と飲酒関連問題発生の関連について調査し、所得格差が飲酒量と飲酒関連問題に及ぼす関係が（所得分配の不平等を測る指標である）Gini係数よりも人種起因格差によりよく関連するかを探索した。所得格差は不利益な条件に置かれた人々にとってより弊害をもたらすかについても検討した。		
方法： 米国の代表的データである2000年と2005年の米国飲酒調査結果（成人13,997人）と2000年米国国勢調査から得た州毎の所得格差と地域貧困指標を統合した。所得格差はGini係数と人種間貧困比（黒人と白人、ヒスパニックと白人間）を用いた。多層統計モデルを用いて州内研究協力者の集簇の有無を検討した。		
結果： 貧困比による所得格差指標は少量および大量飲酒と正相関があった。貧困比と飲酒関連問題の関連は白人に比べて黒人およびヒスパニックで強かった。家庭貧困は所得格差との関連に対して影響を来さなかった。		
結論： 貧困比は飲酒と飲酒関連問題と関連があったが、所得格差は全体として関連がなかった。所得格差が大きい州で飲酒関連問題が多いことの要因の一部には社会問題が関連しているであろう。		